

鹿児島地区合併協議会の合併協定調印式を挙行するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、須賀鹿児島県知事をはじめ、一市五町の議会議員の皆様、そして関係の皆様には、ご多用の中ご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、協議会委員の皆様には一年余にわたり、熱心なご協議を賜り、大変ありがとうございました。

お陰様で、先ほど、目出度く歴史的調印を終わることができました。皆様方とともに、心から喜びを分かち合いたいと存じます。

さて、現在、我が国においては、進展する地方分権の受け皿としての行政体制の強化と将来にわたって厳しさが予測される地方財政への対応策として、市町村合併が進められています。

このことを受け、私共、一市五町においては、平成十三年五月に鹿児島地区市町村合併調査研究会を設けて、合併特例法に基づく合併についての調査研究を始めました。

ところで、一市五町は、これまでお互いに協調し合って発展してきましたが、すでに日常生活圏は鹿児島を中心に一体化しています。

このような地域の一体化と合併調査研究会の調査、研究の結果の上に立って、昨年一月、鹿児島地区合併協議会を設置し、今日まで合併についての具体的な協議を重ねてまいりました。

合併調査研究会を設置してから約三年、合併協議会を設置してから一年余、関係の皆様のお真摯で前向きな取り組みにより、協議は極めて順調に進められ、本日の調印式を迎えることができました。

ここに改めて、関係の皆様これまでのご尽力とご協力で心から敬意と感謝を申し上げます。

また、この間、各面から懇切なご指導を賜った須賀知事をはじめ、県当局に対して衷心から感謝申し上げます。

さて、合併という大義があるとはいえ、歴史と伝統に輝き、先人たちの叡智と努力によって築かれてきた自治体が消滅することは、理論的には分かっているも心情的にはしのび難いものがあると思いますが、五町の皆様は将来にわたる地域の発展のため、合併の道を決断されました。

私共は、このことに深く思いをいたし、当協議会で決定された新市まちづくり計画を着実に実行することはもとより、すべての地域の一体的浮揚、発展に努力していかなければならないと思えます。

合併後の新生鹿児島においては、一市五町の総意を糾合し、渾然一体となって合併に寄せられた期待と要請を実現していかなければならないと思えます。

本日の調印を新たな出発点として、一市五町が更に協力し、十一月一日にはすべての人々に祝福される合併が実現するよう、努力してまいりたいと存じます。

終わりに、皆様方のご尽力とご協力により、ここに目出度く調印ができましたことに、改めて衷心から厚く御礼申し上げます。今後一層のご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝をお祈りして、挨拶といたします。

平成十六年三月三日

鹿児島地区合併協議会会長 赤崎義則